北京日本学研究中心

通　　讯

《第二十号》

责任编辑：山下纪久枝　谯 燕　邮政编码：100081　Tel：8422277--584　1992.5.15

就　任　致　辞

池田　温

到达桃花盛开、群芳争妍的北京，陈海良先生及其他工作人员乘“中心”的汽车前来机场迎接，并热情的帮我搬运十多件沉重的行李，看到他们开朗的表情，我也非常愉快。

在东京，佐藤保前任主任教授及篠崎先生给我作了详细的说明，我也曾与来日访问的李书成先生直接交谈过。然而，当我来到北京，看到“中心”生机勃勃的气氛，特别是年青的“中心”毕业生充满朝气、满怀希望的情景，很受鼓舞。

书架上摆列着的新出版的《日本学研究1》、《日本学论丛II》和《中国日本学年鉴1949－1990》体现着“中心”的发展现状：“中心”尽管诞生不过7个年头，但为使之发展成为中国的日本学研究的中心，有关人员进行了不懈的努力，正铺垫着坚实的基石。

我的专业是中国古代史和前近代东亚文化交流史，但却没到外国留学过。在此之前，尽管来过北京多次，但大多是短短数日的逗留，最长不过一个月。这次能跟妻子一起在北京开始第二人生，我感到似乎是来留学的。

“中心”尚有许多亟待解决的难题，现在仅是准备5月份的学术研讨会，每日就已忙得不亦乐乎。我希望中国人与日本人、教师与学生、研究人员与工作人员精诚合作，相互协力，共同开创未来。　　（周敏西　译）

★简　　讯★

①4月27日（星期一）下午6点开始，日方在新世纪饭店举行了答谢宴会。中国国家教育委员会、北京外国语学院、日本大使馆及“中心”的有关人员参加了宴会。

②4月30日（星期四），前任主任教授佐藤保先生结束了一年的任期回国。

③5月4日(星期一)，进行了第8期（92级）研究生的入学口试。

④“中心”将于5月20日（星期三）～23日（星期六）举行第4届日本学中日学术研讨会，欢迎各位前来旁听。

“中心”新任教职员·自我介绍

［人事往来］

◎王世斌（中方办公室主任）

生于1952年。我以为人生一世，莫过于发奋求进，事业成功。本人大学专业是英语，现在日本学研究中心从事教育管理工作，能为中日交流和友谊奉献微薄之力而感到荣幸。业余爱好骑车、爬山、旅游，另外特别偏爱书法，它既可陶冶情操，又可静心养身，诚可为一举两得。

◎张龙妹（教师，“中心”第5期毕业生）

因为是龙年生的女孩，就起了这么个名字。一般的中国人据此就能算出我的年令，猜出我是南方人了。我的专业是日本文学，专攻《源氏物语》。喜欢爬山、放风筝，还喜欢做菜，不过，水平都不怎么样。

◎徐向东（教师，“中心”第5期毕业生）

出生于60年代后期的我们这一代人，名字免不了带有“史无前列”的时代烙印。所幸日后受惠于改革开放，能够进入“中心”学习和工作。本人选择日本企业作为研究方向，别无他意，只愿将来学有所获，能为国家经济发展、中日交流略尽绵薄之力。

公开讲座

◎第6次	4月23日（星期四）	标准语的形成	古田东朔先生
◎第7次	5月 7日（星期四）	日本近代诗的草创期	角田敏郎先生
◎第8次	5月14日（星期四）	假名文的历史	秋本守英先生

1992年～1993年度客座研究员
招聘细则

对　　象：已取得硕士学位或具有讲师以上资历的德才兼备的日本学研究学者，年龄在40岁以下。

研究方向：日本语言、日本文学、日本社会、日本文化

任　　务：①按确定专题进行研究。　②研修期满提交研究论文。③协助中日专家作适当的教学辅导工作。④协助“中心”作适当工作。

期　　限：半年至一年。

待　　遇：由本“中心”提供生活及研究费用。

※申请截止日期为1992年6月30日。

〔通訊・日本語版〕

着任のごあいさつ

池田　温

桃華やさまざまな花々の咲きにおう北京に着き、センターのバスで空港まで出迎えて十幾個もの重い荷物を親切に運んでくださる陳海良先生はじめスタッフの方々の明るい表情に接し、私も嬉しくなった。

佐藤保前主任教授や篠崎さんから東京で詳細な説明を受けており、また、来日された李書成先生のお話も直接承っていたが、現地に来てセンターの活き活きした空気、特に若々しいセンター卒業生たちの希望に溢れる活躍を見て、日ごとに鼓舞されている。

書棚には新刊の「日本学研究１」「日本学論叢Ⅱ」「中国日本学年鑑1949－1990」が並び，生まれてまだ７年ながら、中国における日本学研究のセンターをめざす関係者のたゆみない努力が、既に礎石をしっかり据えつつある現状を物語る。

私は中国古代史と前近代東亜文化交流史を専攻したが、外国に留学した経験がない。今まで数回北京に来たが、長くて１月、多くは数日の滞在にすぎなかった。今回ようやくワイフと共に第二の人生の始まりを、北京で留学生生活を送るようになった気持である。

センターは未だ解決困難な多くの課題を抱えている。現在は、５月のシンポジウムの準備でテンテコ舞いの毎日である。中国人と日本人、教師と学生、そして研究者と事務員、お互いに助け合い、固く協力して未来を切り開いてゆきたい。

ニュース

☆４月27日（月）午後６時から、新世紀飯店において、センター日本側の主催による答礼宴が行われた。中国国家教育委員会、北京外国語学院、日本大使館、およびセンターの関係者が参加した。

☆４月30日（木）、佐藤保前主任教授が１年間の任期を終えて、帰国された。

☆５月４日（月）、第８期（92級）大学院修士課程の口述試験が行われた。

☆５月20日（水）～23日（土）の４日間にわたって、第４回日本学中日シンポジウムが開催される。より多くの皆様のご参加をお待ちしている。

公開講座

♡第６回	４月23日（木）	標準語の形成	古田東朔先生
♡第７回	５月７日（木）	日本近代詩の草創期	角田敏郎先生
♡第８回	５月14日（木）	仮名文の歴史	秋本守英先生

センター新任教職員・自己紹介

◎王世斌（中国側事務室主任）

1952年生。「人生、奮い立って前進し、事を成し遂げるに過ぐるはなし」と思う。大学での専攻は英語。現在、北京日本学研究センターで教育管理の仕事に携わり、中日交流および友好のために微力を尽くすことができ、光栄に思っている。

趣味は、サイクリング、登山、旅行など。また、とりわけ書道を愛好している。書道は情操を陶冶することができるだけでなく、心を静め、身を養うことができる。まさに一挙両得である。　（山下紀久枝　訳）

◎張龍妹（教師、センター大学院修士課程・第５期修了）

辰年に生まれた女の子なので、こんな名前がつけられました。中国の人は普通、これで、私の年齢、そして南方の出身であることが分かるでしょう。

専門は日本文学で、『源氏物語』を研究しております。趣味は、山登り、凧上げ、料理を作ることですが、皆下手の横好きに過ぎません。

◎徐向東（教師、センター大学院修士課程・第５期修了）

60年代の末に生まれてきた我々の世代は、名前にも「歴史上前例のない」あの時代の焼印を押されることを免れ得なかった。幸いにして、その後「改革開放」のおかげで、本センターで勉強することができた。私は日本企業を研究テーマとして選択したが、これは他でもなく、将来中国の経済発展や中日交流のために微力を尽くしたいと思っているからである。

９２年秋学期客員研究員招聘

下記のような要領で、１９９２年秋学期の客員研究員を招聘する。詳細は、「北京日本学研究センター　１９９２年秋学期客員研究員招聘細則」をご参照いただきたい。

対象：既に修士の学位を有するか、又は講師以上の資格を有する者で、徳性と識智を兼ね備えた日本学研究者。年齢は４０歳以下の者（1952年９月１日以降に生まれた者）。

研究分野：日本語学、日本文学、日本社会、日本文化

任務：(1) 所定の研究テーマに従って研究を行うこと。
(2) 任期満了前に研究成果を提出すること。
(3) 中日教員の授業・研究指導を補佐すること。
(4) 本センターが必要とする業務に従事すること。

期間：半年乃至１年（１９９２年９月１日より任期開始）。

待遇：本センターの規定による生活費及び研究費を支給する。

★申請書は１９９２年６月３０日までにセンターに提出すること。当日消印有効。

北京日本学研究中心

通　　讯

《第二十一号》

责任编辑：山下纪久枝　谯燕　邮政编码：100081　Tel：8422277--534　1992.6.15

第4届日本学中日学术研讨会简报

第4届日本学中日学术研讨会已于5月23日结束。此次研讨会举行了纪念讲演、特别讲演、以“近二十年中国的日本学研究”为题的研讨会和语言、文学、社会、文化四个分科的专题报告会。5月20日上午的开幕式，出席的中方贵宾有中日友好21世纪委员会中方首席委员张香山，中日友协会长孙平化、副会长王效贤，国家教委国际合作司司长于富增，北外院长王福祥等；日方贵宾有前日本驻华大使、日本国际交流基金顾问鹿取泰卫，日本驻华大使馆参赞荒木喜代志、秘书高桥力丸，日本著名学者中根千枝、鹤见和子、大冈信等。《光明日报》、中国新闻社等十多家首都及日本的新闻单位的记者到会采访。开幕式后，孙平化、鹿取泰卫和王福祥三位先生分别作了纪念讲演。

两次特别讲演分别于5月20日下午和22日下午举行。中根千枝先生《亚洲诸社会的比较》的报告把南亚、东南亚作为参照背景，从社会人类学的角度对中日两国社会的差异进行了比较研究。王家骅先生《关于“诚”中心的儒学-中日儒学的比较》则从儒学史的角度考察了以“诚”为中心的中日儒学的异同。大冈信先生的《日本诗歌的特质》抓住日本诗歌短小、含蓄的特质，多角度地分析了短歌、俳句在现代日本社会中复兴与繁荣的深刻动因。鹿野先生的《文化意识的现在》则从考察战后日本文化意识的心路历程入手，分析了日本所面临的在新的世界环境和社会基础上怎样实现文化之未来的课题。周一良先生的《新井白石论》把新井白石置于江户时代矛盾重重的社会背景之下加以考察，刻画了新井白石“五尺小身浑是胆”的人格。鹤见先生的《从内发现代化论角度看到的现代中国及其与日本的比较》则提出了“互相交换样板”理论，强调后发现代化国家只能走自己的路。并对中国建设小城镇的工业化道路给予了高度评价。

5月23日的研讨会，卞崇道副教授、刘耀武教授、李芒教授、万峰教授，分别就最近20年来中国的日本哲学、语言、文学及历史研究做了基调报告，并在听取了王守华、修刚、揭侠和孙承四位先生的评议之后，回答了听众提出的问题。

5月21日和22日上午举行的12场分科报告会，共有48位代表宣读论文，其中语言16人，文学12人，文化12人，社会8人。总的来说，关于日本语言的研究，面广而且细致，水平较高，并有向探讨语言与文化之关系发展的趋势。在关于